

地震の石碑 (21)

秦野市内の地震の石碑

(その1) 関東大震災における歿死者の供養塔

丹沢山塊の南側の秦野盆地に秦野の市街が発展し続けています。市内には弘法の清水など多くの湧水が湧き出し、これらの湧泉群は名水百選にも選ばれています。この秦野盆地の多くの場所で関東大地震にかかわる石碑を見いだすことができます。それらの石碑は建立の経緯により大まかに次のように区分することができます。

| | | | |
|---------|---|-----------------|---|
| 歿死者の供養塔 | 4 | 道路・耕地・建物等の復旧記念碑 | 7 |
| 水道記念碑 | 2 | 新たに生じた震生湖の碑 | 1 |

これらの全てを一度に掲載することは限られたページでは出来ません。ここでは先ず歿死者の供養塔から記してみようと思います。

関東大震災歿死者供養塔（写真1）

この供養塔は秦野市名古木（なかぬき）の玉伝寺境内に建てられています。碑の高さは台座をふくめてほぼ2m程です。関東大地震の当時この玉伝寺は仮の教室となっていて、逃げ遅れた二



人の生徒が死亡したということです。供養塔の裏面には名古木地区の13名と落合地区の5名の歿死者の名前が刻まれています。この碑は昭和2年9月1日に建立されましたが、当時の被害状況は碑面に刻まれていません。

震災歿死者供養塔（写真2）

この供養塔のある龍法寺は、弘法山の南斜面の瓜生野地区にあります。平成元年9月11日の御施餓鬼を前にして、改修工事を終えた真新しい石段を登りつめた右側にひっそりと建てられています。御施餓鬼の準備に忙しく働きおられたこの寺の檀家の方々が、珍しげにこの供養塔に寄っ

写真1 玉伝寺境内の関東大震災歿死者供養塔

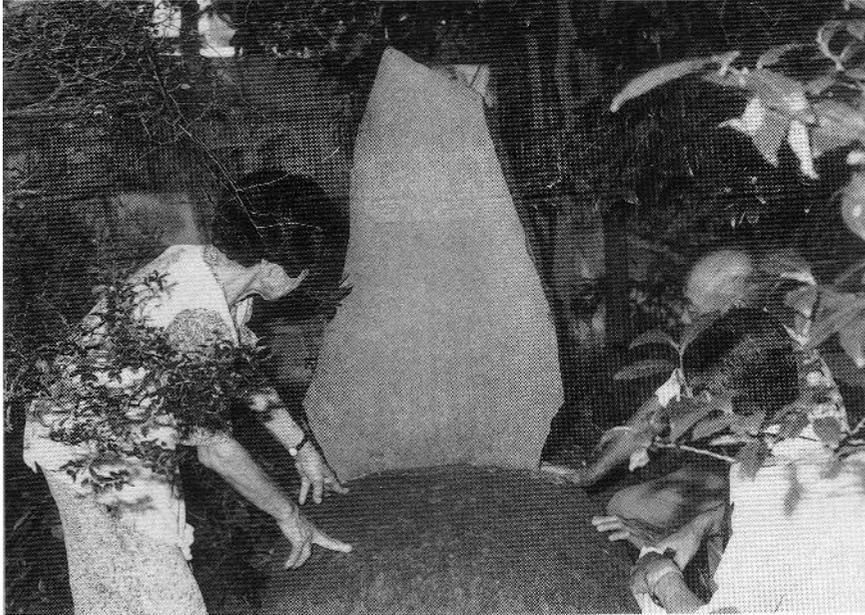


写真2 龍法寺境内の震災犠死者供養塔

で見えました。あらためてこの碑を見て、六十余年も前の出来事を思い出された方もありました。

この供養塔には地震で亡くなった8名の戒名が刻まれています。集まってみえた檀家の方が、地震で家が潰れその梁で押しつぶされて亡くなった

人のことを聞いたことがあると話してくださいました。

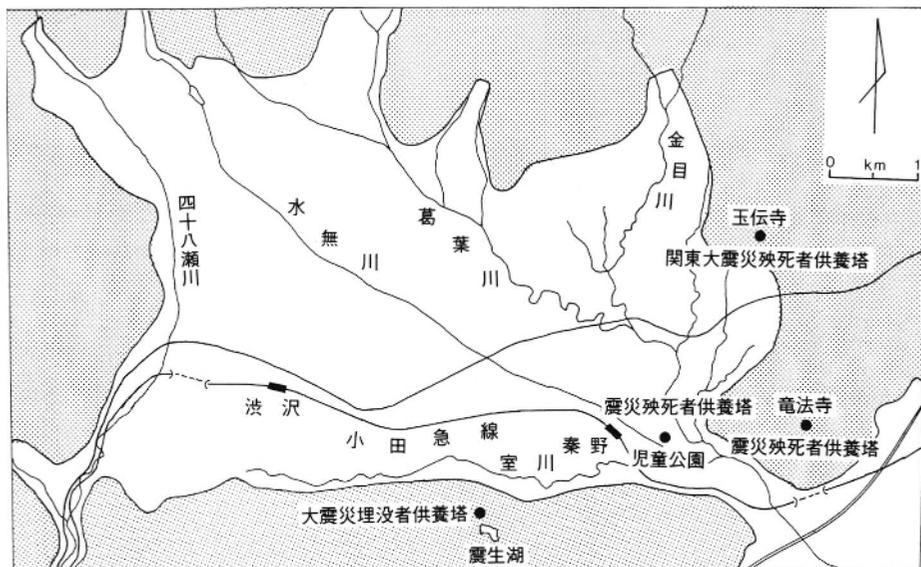
この供養塔は瓜生野地区の方々により昭和10年9月に建てられました。

大震災埋没者供養塔（写真3）

秦野盆地の南縁を東西にのびる渋沢丘陵上を走る神奈中バスの震生湖バス停の北側に、この供養塔が建てられています。バス停の目の前に大きな小南道路改修記念碑があります。記念碑の北側に小道を挟んで、高さ1.2m程の供養塔が榎木の根元にひっそりと建っています。

バス停の南側に震生湖があります。これは関東大地震の際に、このあたりで約55m四方にわた

図1 秦野市内に分布する地震の石碑



り深さ約 12m の山崩れが起きて出来た湖です（地震の石碑（6）、震生湖と寺田寅彦句碑、観測日より、第 3 号、（1977）参照）。丁度このとき学校から下校途中だった二人の生徒が山崩れの犠牲になりました。この供養塔の裏面に刻まれた名前により二



写真 3 震生湖バス停脇の大震災埋没者供養塔

人は 13 と 11 才の女生徒であったことが分かります。

ここを訪れたのは震災記念日（9 月 1 日）の十日後のことです。供養塔に供えられた菊が萎れかけていました。

震災歿死者供養塔（写真 4）

国道 246 号線から東名インターチェンジ・二宮方向に道を変え、河原町交差点を右折して秦野市街に向かって約 250m の所にこの供養塔の建つ河原町の児童公園があります。日中はお年寄りのゲートボール場となっています。供養塔は台座を含めて 3m を越す大きさです。碑の裏面には関東大地震で亡くなった方々の名前が刻まれています、その名前の多さに驚かされます。

この碑には当時の秦野一町五箇村での歿死者の名前が、町や村別に刻まれているのです。震生湖近くで犠牲になった二人の女生徒の名前もこの供養塔碑に見いだすことが出来ます。

| | | | |
|------|------|------|-------|
| 秦野町 | 60 名 | 東秦野村 | 29 名 |
| 北秦野村 | 16 名 | 西秦野村 | 29 名 |
| 南秦野村 | 28 名 | 大根村 | 62 名 |
| | | 合計 | 224 名 |

現在の秦野市域は上秦野村を含めた一町六村になりますが（図 2）、この碑には当時足柄上郡の行政区域にあった上秦野村の歿死者名は刻まれていません。なお、この供養塔が建てられたのは昭和 5 年 9



図 2 秦野市の市域の変遷



写真4 河原町児童公園の震災歿者供養塔

月のことです。

当時の秦野町では地震後間もなく火事が起き大変大きな被害を出しました。神奈川県震災誌（神奈川県、昭和2年発行）にはその様子が次のように書かれています。

『秦野町は、震災後間もなく出火し、倒潰家屋千八百八戸の内、町内樞要の地帯に属する約百六十戸を烏有に帰せしめき。火元は町の西南端にして、西南の強風の為め、字乳牛より字大道上宿に延焼し、町の中央四辻に延焼したる際風向変じて東北方の風となり、後又西南風に変じ、片町より、中宿、下宿、下菅屋に延焼し、一万七千五百坪の地域を焦土と化して、二日午前二時頃鎮火したり。』

この火災は町の西方の火元から次第に東に燃え移って行ったので、東京のような火災による焼死者は出ていないようです。河原町の供養塔に刻まれた

二百余人にもものぼる歿死者は、ほとんどが地滑りや潰れた家の下敷になって亡くなったのでしょうか。

表の大震災被害調査表は大正15年に内務省社会局が編纂した大正震災誌をまとめたものです。河原町の震災歿者供養塔に刻まれた町村毎の犠牲者数と比較すると、秦野町と西秦野村の人数に大きな違いがみられます。被災後の調査の難しさが分かるような気がします。（平野富雄）

関東大震災被害調査表

| 町村名 | 世帯数 | 全潰 | 半潰 | 消 失 | | 流 出 | | 死傷及び行方不明 | | |
|------|-------|-------|-------|-----|---|-----|----|--------------|-----|----|
| | | | | 全 | 半 | 全 | 半 | 死 | 傷 | 不明 |
| 秦野町 | 1,808 | 351 | 1,457 | 232 | 5 | | | 21 (60) | 27 | 1 |
| 南秦野村 | 728 | 208 | 285 | | | | | 24 (28) | 40 | 2 |
| 東秦野村 | 687 | 218 | 290 | 1 | | 14 | | 31 (29) | 17 | |
| 西秦野村 | 807 | 153 | 62 | | | | | 18 (29) | 6 | |
| 北秦野村 | 490 | 141 | 162 | | | 11 | 17 | 15 (16) | 18 | 1 |
| 大根村 | 589 | 348 | 175 | | | | | 53 (62) | 22 | 6 |
| 上秦野村 | 329 | 71 | 209 | | | | | 9 | 5 | |
| 合 計 | 5,438 | 1,490 | 2,640 | 233 | 5 | 25 | 17 | 171 (233) | 135 | 10 |

内務省社会局編、大正震災誌（大正15年）による。ただし表中の死者数で括弧内の数字は震災歿者供養塔に刻まれた歿死者の数です。